2026/27 WEEKLY BULLETIN

Rotary District 2790

国際ロータリー第 2790 地区　第 4 グループ

市原ロータリークラブ会報

持続可能な
インパクトを
生み出そう

事務局　袖ケ浦市椎の森 385 － 21 株式会社リプラス内　　例会場　淡粋

第2818回例会　2026年11月5日（木）



● **司会進行**

ＳAA/ 中山会員・本多委員長

会報担当/ 川島事務局

●**点　鐘**　角谷　会長

●**ソ ン グ**　君が代・奉仕の理想・4つのテスト

●**お客様**　米山奨学生　崔理智様・ｶｳﾝｾﾗｰ岡野直美様
君津 RC 会長大森俊介様・副幹事安田学様
秋元ゆかり様・地区米山奨学委員会武田勲様

● **会長挨拶**　　**角谷太一会長**

みなさん、こんにちは。本日のお客様はメインプログラムで卓話をお願いしております米山奨学生の崔 理智さん、地区米山記念奨学委員会 委員 武田様、世話クラブである君津ロータリークラブからカウンセラーの岡野様、会長の大森様、副幹事の安田様、会員の秋元様とたくさんの応援団が一緒に駆けつけてくれました。ありがとうございます。今月はロータリー財団月間です。先日事務局から皆さんに配信された財団室ニュースはご覧になって戴けましたでしょうか。その中にうれしい記事がありました。当２７９０地区の梶原パストガバナーが「環境のための梶原 等・由美子基金」という冠名基金を設立し当地区で２組目、日本で８０組目のアーチクランフソサエティ会員となられました。非常に素晴らしい取り組みだと思います。ここのところニュースで耳にするのはインターネットの情報漏洩問題ばかりな気がします。私自身お店ではクーポンをもらうために会員登録等していましたが正直どこのお店でどの程度の情報登録をしていたかは覚えておらず、少し前からメールは基本社内と川島さんからのメールしかほぼ見ておりません。そのような中で内房線が年内復旧も難しいような見通しがあった中、大成建設さんを中心とした復旧作業チームの努力の結果１１月８日に姉ヶ崎～木更津間を終日運休していた仮設の折り返し設備等を撤去して１１月９日から全線運転再開という流れになっているそうです。運転本数等は元通りに戻るかわかりませんがまずは全線開通を喜びたいと思います。一方、久留里線はもともと久留里～上総亀山間が来年の４月１日に廃線が決定しておりましたが復旧作業がそれまでに完了する目途が立たないということで復旧作業をあきらめ３月３１日までの代替バスの運行を決めたそうです。私たちの仲間の小湊鐵道さんにおいても復旧に必要な費用が概算で５億以上かかるそうで現在、国と自治体と事業者の負担割合について特例を求め、交渉中だそうです。こちらも早期の復旧を沿線の方々も待たれていると思います。最後に先日の地区大会にご参加戴きましたみなさま、ありがとうございました。

大会１日目には宮武直前会長を中心に会員皆様の
ご協力による昨年の活動に対して地区からの
表彰がありました。2025-26 年度クラブ優秀賞、
100%ロータリー財団寄付クラブ、
Every Rotarian Every Year クラブ、
ロータリー財団恒久基金寄付優秀クラブ、
ロータリー米山記念奨学会寄付優秀クラブ、
ロータリー米山記念奨学会功労クラブ第２１回、２２回、
End Porio now 歴史をつくるカウントダウンキャンペーン感謝状と数多くの表彰を戴きました。
皆様ご協力ありがとうございました。



● 幹事報告

星　マリコ幹事



TUNAGU2790 について千葉幕張 RC・松戸中央 RC
鴨川 RC 各１万円づつ賛助金の支援を行います。
11 月 18 日山崎会員のアヅマホールディングス株式会社
本社横駐車場にて献血を行います。
11 月 27 日は第３第４Ｇ合同ラーニングセミナーが
ＴＫＰｶﾞｰﾃﾞﾝｼﾃｨ千葉にて開催されます。
１２月 10 日はガバナー公式訪問の為第二週の例会日に
なりますので、お間違えないようお越し下さい。

● 本日司会進行

中山会員・本多会員



● 本日例会場　　淡粋

いつも美味しい料理ご馳走様です。



● **米山記念奨学会より感謝状**

西村会員



ご寄付頂き
ありがとうございます。

本多会員



山崎会員　　米山記念奨学会より感謝状



ご寄付ありがとうございます。

● **奨学生　李想さん　奨学金授与　李想さんご挨拶**



先週、上海と蘇州に行ってきました。
台風の影響で、雨がたくさん降っていましたが、
幸い、晴れた日もありました。実は、兄が上海で
働いているので、今回会えるかなと思っていました。
でも、ちょうど出張中だったので、残念ながら会えませんでした。その代わりに、兄がおいしいものを食べるためにお金をくれました。それで、蘇州に行って、有名なカニを食べてきました。とてもおいしかったです。また、上海では友



と一緒に、とても有名なレストランに行きました。食事をしていたら、隣のテーブルに日本人の女性が二人来ました。何を注文するか相談していたのですが、中国語が分からなくて、少し困っている様子でした。私は最初、何を話しているのかなと思って、つい聞いていたのですが（笑）、注文するのが大変そうだったの で、少し通訳をしました。その後、お話してみたら、二人はカタール(こうくう)航空の乗務員でした！ 私と同じように、成田空港の第2ターミナルをよくいくそうです。「もしかしたら、今までに会ったことがあるかもしれないね」と話して、面白い出会いになりました。私は旅行が好きなのですが、その理由の一つは、旅行先でいろいろな人と出会えることです。今回のように、予定していなかった人との出会いが、旅行の特別な思い出になることもあります。又よろしくお願い致します。

● １１月結婚記念日の会員様

赤星会員・山崎会員

おめでとうございます。



● １１月誕生日の会員様

万崎会員

お誕生日おめでとうございます。



● 本日のお客様

君津ロータリークラブ会長　**大森俊介様**



一緒に卓話の応援に
安田学副幹事と
秋元ゆかり会員とで
お邪魔いたしました。

君津ロータリークラブ奨学生カウンセラー
岡野直美　様



市原中央ロータリークラブ
地区米山奨学委員会より武田様



● 委員会報告　中西委員長



１１月８日は五井大市が開催されます。
協賛お願いです。
宜しくお願い致します。
第４Ｇのゴルフも
11/11 ですので、
参加の皆様よろしく
お願いします。

●メインプログラム

米山奨学生　君津ロータリークラブ　崔　理智　様（ﾁｪ ｲｼﾞ　様）



皆さん、こんにちは。米山奨学生のチェ・リジと申します。世話クラブは君津クラブです。現在、千葉 工業大学の博士課程１年です。今日は、私が韓国から日本に来て、日本で暮らしながら感じたことや、今 取り組んでいる研究、そして米山奨学生として経験したことについてお話ししたいと思います。 まず、簡単に自己紹介をします。私は韓国出身で、大学では視覚デザインを勉強しました。大学を卒業 した後は、韓国で Web デザイナーとして働いていました。ホームページや広告など、いろいろなデザイ ンの仕事をしていました。この写真は、そのころの私です。今は研究をしていますが、実は最初から研究 者を目指していたわけではなく、デザイナーとして働いていたことが、今の研究につながっています。

私のふるさとは、韓国の「麗水」、「ヨス」という町です。たぶん、知られてないところなので、初めて聞いた方もいらっしゃると思います。地図で見ると、ここです。

韓国の南のほうにある港町です。



海がと ても近くて、島もたくさんあります。
写真にあるのは、麗水の海と突山大橋です。
ソウルとはかなり雰囲 気が違って、海があって、
比較的ゆっくりした町です。
私はこの町で育ちました。 そして今は、日本に来て、
千葉工業大学の博士課程で研究をしています。
デザイナーだった私が、日本 に来て大学院に入り、今は博士課程まで進みました。この写真は学位授与式のときの写真です。韓国で会 社員をしていたころには、自分が日本で博士課程に進むとはあまり想像していませんでした。 では、どうして日本に来たのか。最初のきっかけは、二十歳のころでした。
初めて東京に旅行に来たと き、「いつか日本で暮らしてみたい」と思いました。
そのときは、まだ具体的な計画はありませんでし た。でも、韓国で仕事をしながら、デザインについてもっと勉強したい、特に、人がどう考えて、どう行 動するのかをもっと深く知りたいと思うようになりました。そこで、日本で大学院に進むことを決めまし た。 韓国と日本は、とても近い国です。私も日本に来る前は、「文化もかなり似ているだろう」と思ってい ました。でも、実際に日本で生活してみると、「あれ？ 意外と違うな」と思うことがたくさんありまし た。ここからは、そんな小さな文化の違いをいくつか紹介したいと思います。 まず一つ目は、ごみです。日本に来たばかりのころ、ごみの分別が本当に難しかったです。燃えるご み、燃えないごみ、ペットボトル、缶、びん……。それだけではなく、「これは何曜日に出すんだろ う？」と、毎回確認していました。そして、実は一度、出し方を間違えたことがあります。私は普通に出 したつもりだったのですが、後で見たら、私のごみだけ回収されずに残っていました。そのときは、 「えっ？ なんで私のごみだけ残っているの？」と、本当にびっくりしました。韓国ではそこまで細か く意識したことがなかったので、日本では「ごみを出す」という日常の小さなことにもルールがあるんだ な、と感じました。今は、だいぶ慣れました。 二つ目は、電車です。初めて日本の電車に乗ったとき、「すごく静かだな」と思いました。みんなスマ ートフォンを見たり、本を読んだりしていて、大きな声で話す人があまりいません。韓国では、もう少し 普通の声で友達と話している人も多いので、私も最初は、いつもの声で話しそうになって、「あ、ちょっ と静かにしないと」と思うことがありました。これも生活して初めて気づいた違いでした。 三つ目は、宅配便です。日本に来たばかりのころ、家に帰ったら、この「不在票」が入っていました。 最初は、「これは何だろう？」と思いました。韓国では、宅配便を玄関の前に置いてくれることも多い ので、荷物を受け取るために、もう一度時間を指定することが私には少し新鮮でした。今では再配達にも 慣れましたが、最初は日本の宅配の仕組みを一つずつ覚えていきました。 次は、生活のルールではなく、言葉の違いです。韓国では、友達や家族に会ったとき、「밥 먹었어？」 日本語にすると「ご飯食べた？」とよく言います。でも、これは本当に「何を食べましたか？」と聞きた いわけではありません。「元気？」とか、「ちゃんと過ごしている？」とか、相手を気にかける気持ちが入 っています。私は韓国でずっとこの表現に慣れていたので、究室の生活を始まった頃、誰も私に「ご飯食 べた？」と聞いてくれないことが、少し寂しかったです。「あれ？ 誰も私のご飯を心配してくれない ……」と、最初は本当に思いました。もちろん、日本の人が私を心配していないわけではありません。日 本では「大丈夫？」とか「元気？」とか、別の言葉や行動で気づかいを表します。それに気づいてから、 同じ気づかいでも、文化によって表し方が違うんだなと思うようになりました。 もう一つ、面白いと思ったのが「乾杯」です。日本の飲み会では、最初にみんなで「乾杯！」

とします よね。もちろん韓国でも最初に乾杯します。でも韓国では、飲んでいる途中でも、「쨘！」と何度もグラ スを合わせます。二人で話していても「쨘！」、誰かが新しく来ても「쨘！」、なんとなく気分が良くても 「쨘！」です。なので、日本で初めて飲み会に参加したとき、「あれ？ もう一回乾杯しないの？」と少し 不思議に思いました。本当に小さな違いですが、こういうところにも文化が表れると思います。 こうした経験を通して、私が日本で強く感じたことがあります。それは、「当たり前」は、人によって 違うということです。私にとって普通だったことが、日本では普通ではないこともあります。反対に、日 本では普通のことが、私にはとても新しく感じることもあります。そしてこれは、国や文化だけではな く、一人ひとりの考え方にも言えると思います。実は、この考えが私の研究にもつながっています。 ここから少し、私の研究について紹介します。私は今、スキンケアを使う人の「考え方」について研究 しています。例えば、同じ化粧水を使っても、ずっと使い続ける人もいれば、すぐに使わなくなる人もい ます。では、その違いはどこから来るのでしょうか。単純に「効果があるか、ないか」だけではなく、そ の人が自分の肌や製品をどう理解しているかが関係しているのではないか。そこに興味を持って研究して います。 研究では、実際にスキンケアを使っている方に質的調査として、インタビューをしています。話を聞い ていると、同じ「使い続ける」という行動でも、理由が人によって違うことが分かります。例えば、ある 人は、「特にすごい効果は分からないけど、肌が悪くならないから使い続ける」と話します。また別の人 は、インターネットの口コミよりも、「自分の肌でどう感じたかを信じる」と話します。このように、「効 果がある」ということ以外にも、続ける理由はいろいろあります。 私が知りたいのは、こうした「その人なりの判断」です。自分の肌をどう見ているのか。インターネッ トの情報、家族や友達の話、そして自分の経験の中で、何を信じるのか。そして、それをもとにどの製品 を選び、使い続けるのか、やめるのか。私は、このようなその人なりの理解のしかたを「メンタルモデ ル」として捉えています。少し難しい言葉ですが、簡単に言うと「その人の頭の中にある、自分なりの理 解」です。 そして、これが最近の私の日常です。インタビューをして、その話を何度も読み返して、「この人はどう 考えているんだろう」と整理しています。写真を見ると、少し地味ですよね。でも、一人ひとりの話を読 んでいると、同じスキンケアでも本当に考え方が違っていて、とても面白いです。
博士課程に入ってか ら、研究について考える時間がかなり増えました。 でも、日本に来て変わったのは研究だけではありません。私にとって、もう一つ大きく変わったことが ります。それが、人との出会いです。日本に来なかったら、おそらく出会うことがなかった人たちと たくさん出会うことができました。特に米山奨学生になってから、その出会いがもっと広がりました。 米山奨学生として、私は本当にたくさんの支えをいただいています。もちろん、研究を続けるための経 済的な支援はとても大きいです。研究に集中できる時間が増えたことは、博士課程の私にとって本当にあ りがたいことです。でも、実際に奨学生になってみると、それだけではありませんでした。例会やいろい ろな活動を通して、今まで知らなかった人と出会って、話をする機会が増えました。今の私にとっては、 支援と人との交流、その両方が大きな財産になっています。 研究室では、論文を読んだり、データを分析したりして、いろいろなことを勉強します。でも、研究室 の外に出て、人と話すことで初めて分かることもあります。
年齢も、仕事も、国も違う人と話すと、「こ ういう考え方もあるんだ」と気づくことがあります。
日本に来たばかりのころは、「韓国と日本はここが 違う」と考えることが多かったですが、最近は、違いを比べるだけではなく、その人自身を知ることが大 切だと思うようになりました。 そして、米山を通して、奨学生の仲間もたくさんできました。出身の国も、大学も、研究分野も違いま す。

普通に大学で研究しているだけでは、なかなか出会えなかった人たちだと思います。
一緒に活動した り、話したり、ご飯を食べたりする中で、日本だけではなく、いろいろな国について知る機会も増えまし た。私にとって、これも米山で得たとても大切な経験です。 そして今年は、とても特別な経験もありました。クラブの皆さんと一緒に、韓国のソウルへ旅行に行き ました。日本で出会った皆さんと、今度は私の国を一緒に歩くというのが、とても不思議でした。普段は 私が日本で「これは何ですか？」「これはどうすればいいですか？」と聞くことが多いのですが、韓国で は逆に、私が皆さんに説明する側になりました。一緒に観光したり、韓国料理を食べたり、写真もたくさ ん撮りました。とても楽しい思い出になりました。 その旅行で、少し不思議な気持ちになりました。日本で出会った皆さんと、今、自分の国で一緒に歩い ている。昔の私だったら、日本にいる皆さんと韓国を旅行するなんて想像していなかったと思います。 日本に来たことで、日本での生活が変わっただけではなく、韓国を見る自分の目も少し変わったよう に感じました。自分にとって当たり前だった韓国の文化を皆さんに説明することで、「そういえば、これ は韓国らしいことなんだ」と、私自身が気づくこともありました。これからも、まずは博士課程の研究を一つずつ着実に進めていきたいと思っています。研究は、なかなか思うように進まないこともありますが、焦らずに、一つずつ積み重ねていきたいです。そして、研究だけではなく、日本で出会った人たちとのつながりも大切にしていきたいと思っています。米山奨学生とし て支えていただいているこの時間を、研究だけで終わらせるのではなく、これからの自分の学びや成長に つなげていきたいです。 最後になりますが、いつも温かく支えてくださっているクラブの皆さまに、改めて感謝申し上げます。 日本に来たころは、分からないこともたくさんありました。でも、研究をしたり、いろいろな人と出会 ったりする中で、私の「当たり前」も少しずつ変わってきました。これからも、研究と出会いの両方を大 切にしながら頑張っていきたいと思います。いつも本当にありがとうございます。これからも、どうぞよろしくお願いいたします。

● ニコニコ報告

夏井会員・・・お先に失礼しますので、ほんの気持ちです。

檜垣会員・倉見会員・・・本日は君津 RC 大森会長・安田副幹事、秋元様、岡野カウンセラー
地区米山委員会武田様ご来会ありがとうございます。
チェ・イジ様素敵な卓話ありがとうございました。これからも頑張ってください。

角谷会長・星幹事・・・君津ロータリークラブ解消大森様・安田様・岡野様・秋元様
市原中央 RC 武田様、ご来会ありがとうございます。
米山奨学生チェさん卓話ありがとうございました。

● 出席報告

本日出席者：43 名　　**欠席者：**46 名　　**出席率：**49.43%